

新型コロナウイルス感染症流行下における母子保健事業実施状況調査

* 調査対象期間：R3.4～8末

問1 妊娠期の支援状況

妊娠届出時面接



【補足】妊娠届出面接を電話とする判断基準

- ・ 新型コロナ感染不安の申し出がある
- ・ 体調不良や里帰り等の理由から来所が困難
- ・ 対面、オンラインとも希望せず

◆ 工夫していること

- ・ 面接のオンライン対応

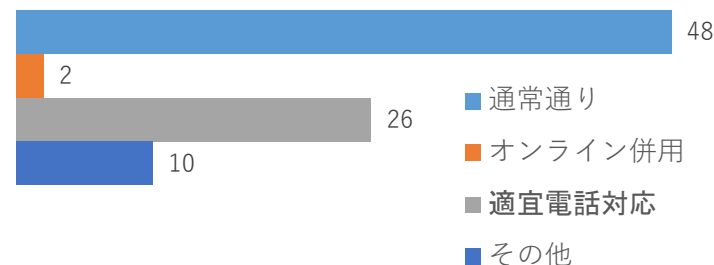
◆ 課題に感じていること

- ・ 母の孤立
- ・ 非接触ニーズへの対応
- ・ オンライン環境の整備
- ・ 保健師がコロナ対応優先とならざるを得ないこと

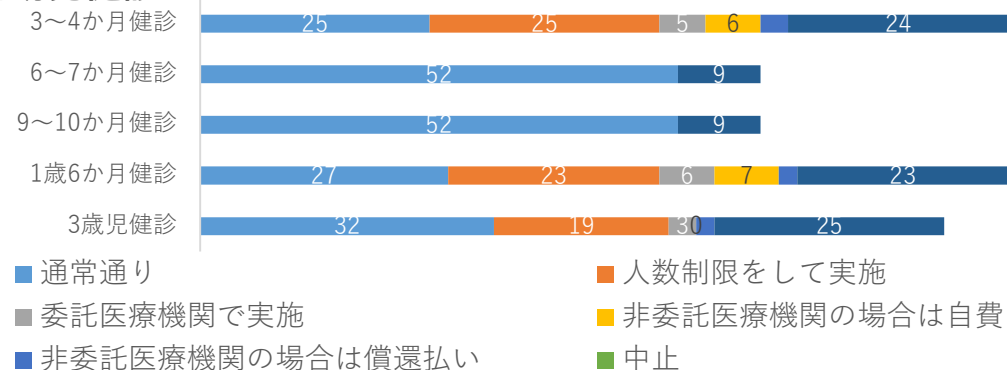
問2 産後の育児支援状況

※学級は妊娠期両親学級等の学級も含む

新生児訪問



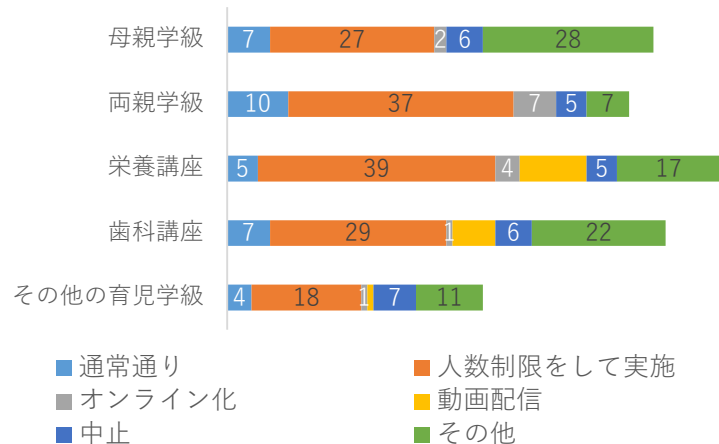
乳幼児健診



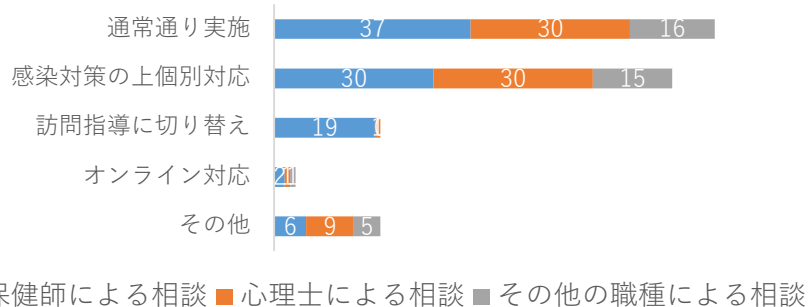
乳幼児健診未受診者対応について



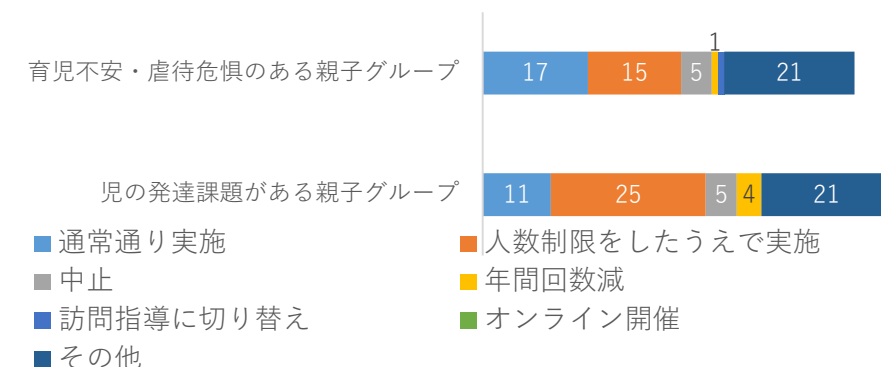
育児学級



ハイリスクを対象とした個別相談



ハイリスクグループ支援



問2 産後の育児支援状況（続き）

【補足】

- **新生児訪問拒否家庭への対応**
 - ・保健センターへの来所や電話相談を実施
 - ・対象期間の延長
 - ・アンケートを事前送付し、訪問時間の短縮化
- **乳幼児健診**
 - ・集団健診は、「1回の人数制限をして年間回数を増やす」対応が殆ど

◆工夫していること

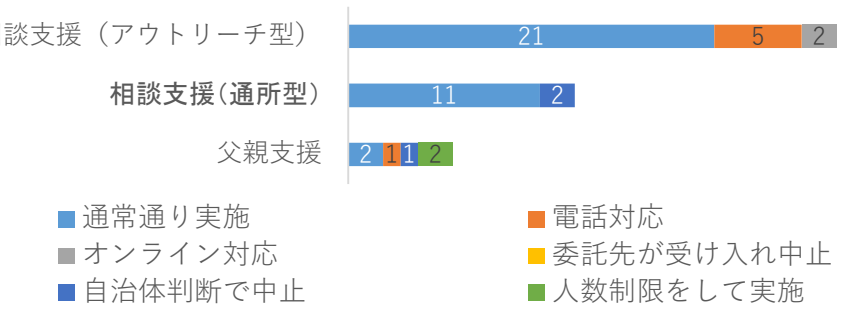
- ・孤立化しやすいため、小集団で実施
- ・事業利用者の感染症対策
- ・父のテレワーク増に伴う父支援の模索
- ・乳幼児健診の一部を個別健診としたことに伴う、フォローやチェック体制の強化

◆課題に感じていること

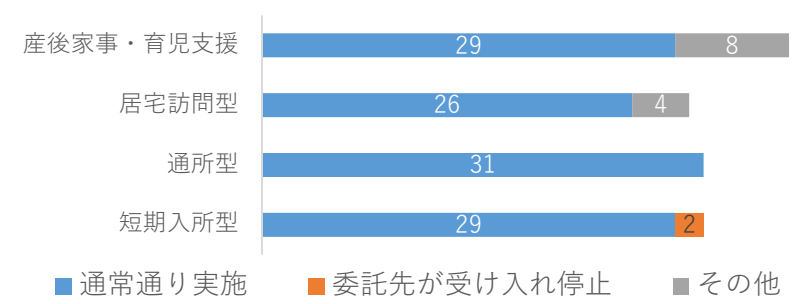
- ・母子の孤立
- ・父のテレワークによる影響(新生児訪問の拒否等)
- ・母子の実情の見えにくさ
- ・事業運営上の感染症対策
- ・児の社会経験が積みにくいことへの対応等、発達支援について

問3 産後の育児支援（とうきょうママ・パパ応援事業関連）状況

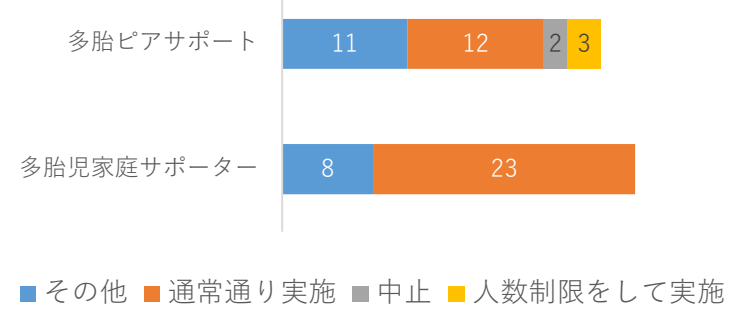
産前・産後サポート事業



産後ケア事業



多胎児家庭支援事業



【補足】 感染症対策の強化

- ・事業者の感染症対策強化の支援（物品等）

◆工夫していること

- ・母子が孤立しやすいため、産後ケア事業の利用促進を働きかけている

◆課題に感じていること

- ・感染不安の強い妊産婦は支援開始のタイミングを逃しやすい
- ・感染対策を強化しながらの事業運営が難しい

※注意：回答の「その他」は、補足説明がある場合の記載欄にもしている